

マイマイ類の発生状況と防除対策

果樹試験場

[研究のねらい]

近年、和歌山県中部のカンキツ産地でマイマイ類の多発生や被害報告が急増しています。しかし、種構成の実態や詳細な発生地域、また化学的防除及び耕種の防除の効果は明らかではありませんでした。そこで、有田川町を中心としてカンキツ園でのマイマイ類の発生状況、また薬剤散布及び株元の銅板被覆の防除効果について調査を行いました。

[研究の成果]

1. カンキツ園で発生しているマイマイ類の大部分はオナジマイマイであり、有田川町から有田市の一部に広く分布しました(写真1・図1)。
2. メタルデヒド粒剤及び燐酸第二鉄水和物粒剤の処理はオナジマイマイの防除に有効です(図2)。
3. カンキツ樹株元に銅板を被覆することでオナジマイマイの樹上への移動は抑制できます(図3)。

[成果の活用面・留意点]

1. マイマイ類は樹上に移動すると駆除が困難なため、発生が確認された園では速やかに防除を行いましょう。
2. 株元を被覆する銅板は錆びた(酸化した)もののほうがより効果的です。



写真1 和歌山県中部で多発生しているオナジマイマイ 図1 有田川町及び有田市でマイマイ類が確認された園(2012年10月2日調査)

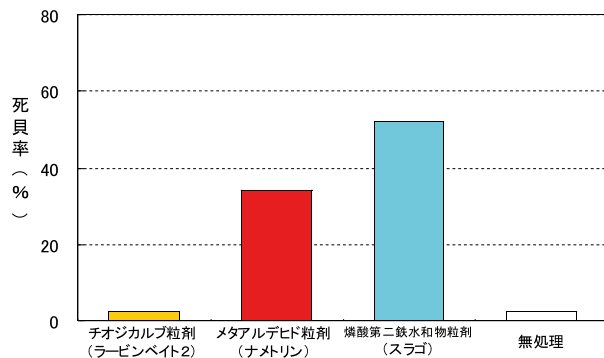


図2 マイマイ類に登録のある薬剤のオナジマイマイに対する効果

調査場所 有田川町奥 果樹試験場内ビニルハウス
 調査方法 田口早生7年生を播栽した60Lポットに薬剤を適量処理した。処理後、試験場内及び有田川町内で採集した供試員を20匹ずつ(各処理2樹)、放員120時間後、死員率を調査した。なお貝の移動と逃亡を防ぐため、樹の株元およびポットの縁部分を酸化処理を行っていない銅板(幅4cm)で被覆した。

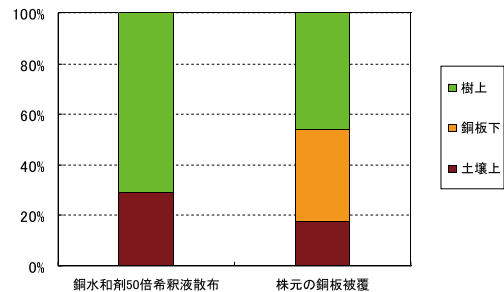


図3 銅水和剤の樹体散布及び樹株元への銅板被覆によるオナジマイマイの樹上への移動抑制効果

調査場所 有田川町奥 果樹試験場内ガラスハウス
 調査方法 田口早生7年生を播栽した60Lポットに銅水和剤(ICボルドー60D)50倍希釈液を適量処理、また樹の株元を幅4cmの酸化処理を行っていない銅板で被覆した(各処理2樹)。処理後、試験場内及び有田川町内で採集した供試員を土壌上に20匹ずつ放員した。放員120時間後、供試員の移動場所を調査した。なお貝の逃亡を防ぐため、ポットの縁部分を上記と同様の銅板で被覆した。

(問い合わせ先 0737-52-4320)